

仮置場に関する部会（第1回） 議事録

【日 時】平成30年12月3日 13:30～15:30

【場 所】岩手県盛岡市 マリオス 183 会議室

【出席者】佐々木氏（大仙市）、三河氏（宮古市）、外山氏（高畠町）、荒木氏（二本松市）

【事務局】環境省東北地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課 保科課長、茶山専門官、
藤林対策官

日本環境衛生センター 寺内、植木、堀内、笹木、高橋、鈴木

1. 開会あいさつ 環境省：保科課長

最近、毎年のように災害が起きているが、毎回、災害廃棄物の早期処理について話題になる。マスコミも高い関心を持っており、被災地以外の方も関心を持ってその報道を見ている。

早期処理で被災自治体に最初に求められることは、仮置場の選定である。災害ごとに発生形態も違うため、柔軟かつ大胆な発想で仮置場を選定するスキルが自治体担当者に求められている。こうしたワーキングを経てスキルを高め、各自治体で力を発揮していただき、実行計画を作っていただきたい。自由な討議の中で、何が課題で何に取り組めばいいのか、語り合っていただきたい。実のあるワークショップをしていただき、力にしていればと思う。

2. 参加者紹介

今回は弘前市の成田氏、石巻市の阿部氏が欠席された。また、宮古市、大仙市、二本松市は、それぞれ代理の方が出席された。

3. 議事

(1) 部会の目的、検討事項、スケジュール等について

資料2を元に日本環境衛生センターの寺内が説明した。

(2) 仮置場候補地の選定について

最初に環境省の藤林対策官が部会の進め方について説明した後、議題を進めた。

資料5（平成29年7月の集中豪雨による水害と仮置場の設置について）をもとに、大仙市の佐々木氏が説明した。発災時、大仙市では、西仙北地域と協和地域の二箇所仮置場を設置したが、それぞれの仮置場における、良かった点と反省点、その理由と対応・対策について話した。初動対応の見せごみの重要性と職員配置の重要性や、上手くいった工夫（監視カメラの設置など）について、実体験を基に紹介した。

●候補地の目星について

環境省

仮置場は初動段階で適切に対応できるかが重要である。

仮置場というものに対して、候補地の目星など各自治体でどのような状況かをお話しいただきたい。

高島町

統合で使わなくなった2万㎡くらいの中学校グラウンドが候補地として考えられる。

他のグラウンドなど、めばしいところはすでに用途が決まってしまうので、今のところここしか空いていない。

宮古市

一昨年の台風10号の際には、仮置場が事前に決まっていなかったのが苦労したが、全部で5箇所の仮置場を設置した。仮置場には広域組合事務局の野球グラウンドや廃校になった学校を利用した。課題として、仮置場の確保は重要だが、幹線道路の遮断への対策（複数箇所の選定）も必要と考えた。（補足資料をもとに仮置場の設置と運営について、当時の苦労した点や対応・対策について説明）

二本松市

場所は全く目星がついていない。東日本大震災の時の、原発事故に伴う除染廃棄物を置いていた仮置場というものがあつたため、「仮置場」という言葉に対して、市民の間に非常に抵抗があるため、慎重に検討している。

環境省

「仮置場」という言葉は、法律用語ではなく、北海道胆振東部地震の時も「災害ごみの“臨時集積場所”」として集めた例もある。そこから、町が委託した業者が一時仮置場（実態は二次仮置場的なもの）に運び出した。仮置場という言葉を使わなくても環境省としても問題はなく、認めないということはないので、自治体の事情に合わせてもらえばいい。

日本環境衛生センターの寺内より資料3を説明。

●災害発生時のステーション回収と仮置場新設について

高島町

旧中学校が考えられる。以前、災害が起きた際は、道路に出してもらったが、その時は便乗ごみで大変だったため、ステーション回収は考えていない。

宮古市

家の前に出してもらおう。市が狭いこともあり、職員がごみの状況を確認した後、収集業者にお願いをしたというやり方を採った。

大仙市

熊本市の方式と宮古市の方式を併せて行うことを考えている。高齢化も進んでいるため、借り置き場まで持ってきてくださいといっても持ってこれない人もいるので、家の前方式とステーション方式の併用が考えられる。

二本松市

城下町で道路が狭く入り組んでいるため道路にごみを出せない。一方で、高齢化率も高いので、戸別回収のサービスを検討せざるを得ない現状もある。持っていける人と持っていけない人の差が出てしまうので、その対応は難しいと考えている。

環境省

旧中学校を候補地としている高島町は、中学校まで持って来れないという市民に対して何か考えていることはあるか。

高島町

特に考えていなかったが、何かしらの対策は必要だと考えた。各地区の公民館の駐車場等が使えるかもしれないと思った。今後対応策を考える。

環境省

資料にもある熊本市は、災害ごみを集める場所として、普段使っているごみステーションを利用した（もともと決めていた規定の方針）。ただし、置き場所や分別の指示が上手くできず、混合ごみになってしまい処理に苦労したという場所もあった。

環境省

ステーションの回収と仮置場の回収は一長一短ある。可燃ごみと粗大ごみでごみがミルフィーユ状態になると、非常に回収の効率が悪い。借り置き場を複数作ると、次の段階に入った時に効率がいい。また、複数ルートを作ることで渋滞の緩和になる。

大仙市

大仙市では、業者が置いたものがミルフィーユ状になってしまった。ただし、上にあるものを効率よく回収できるように工夫した結果、車両手配と全体マネジメントに注力できた。

環境省

自宅の前で回収する際の注意点はあったか。

宮古市

道路が狭いこともあり、職員がごみの状況を確認した後、収集業者にお願いをした。持って行っていいかわからない物は、家の人に確認をするようにしていた。

大仙市

地域で集積したが、調査で回っていた職員にチラシを持たせて配って歩いた。また、自治会長経由でも配ったため、大きなトラブルもなかった。

環境省

地震災害で割れていると判断はしやすいが、水害の際には、濡れて汚れているだけだと、いる物といらぬ物の区別が難しく、判断せずに持って行ってしまいトラブルになってしまったことがある。貴重品は分けてもらうように指示を出さないといけない。

環境省

家の人がいる場合は確認が取れるが、避難所に避難している場合、印刷物を役場で作って、不要なものに張り付けて明確にすることも方法の一つである。

●課題・検討内容

①候補地を選定する際に優先すること

高畠町

災害の規模次第のところもあるが、広い面積は必要だと考えている。候補地は、高台にある点、水源も近くにない、大型トラックも入れる点がいい点である。ただ、一箇所しか候補がないため、他と取り合いになることもあるということもわかり、廃校舎以外の場所も考えないといけないなというところである。防災計画ではごみのことをさらっとしか書かれていなかった。所有地や空き地もないので、どうしたものかと考えている。空き地を利用するかなど、近隣の市町村の状況もお聞きしたい。

宮古市

宮古市の候補地は、面積が広いという利点がある。ただし、さらに大きな災害が起こったら、今のままだと厳しいと考えており、河川敷や港湾が候補地になるかなと考えている。

とにかく、何か所か仮置場を設置することが大切かと思う。空き地自体はあっても、ま

とまったエリアは河川敷や港湾にしか見当たらない。隣接の市町村まではまだ考えていない。

大仙市

広さと複数個所ということは考えている。全てのごみが置ける場所は難しいので、ある程度の面積があって、廃棄物を置ける場所なら、仮置場候補地として挙げていいと考えている。家電等、種類によっていくつか仮置場を開設し貯留し、逆に可燃物など腐敗性の物は一箇所に集めて処理をしていくなど、機能別の仮置場という選択を考えている。限られた公有地のリストアップは出来ているので、来年度、現地調査をして、フルスペックの仮置場になるか、機能別の小規模な仮置場になるか決めていく。小規模なら小さい場所でもさばけるかもしれないし、大きい場合は機能分化も出来るかもしれない。ただ、広さと数を両方満たすことは難しいので、バランスをとって考えていきたい。近隣については、雄物川の流域に近隣市町村があるため、なかなか考えが及んでないのが実情である。

環境省

機能別の仮置場は、機能すると非常に効率的だと思うが、品目別での運搬や収集は、労力を使いそうだが、どう考えているか。

大仙市

労力がかかるのは否定できない。ただし、フルスペックを備えるような大きな仮置場は難しいと考えている。それで小さい候補地が候補から外れるということももったいない。現実取れる手ということで動きたい。

環境省

確かに理想的な候補地をずっと探し回っていても仕方がないので、現実的な手として考えるのはいいかもしれない。

二本松市

候補地を複数設ける必要があると考えている。

過去に合併した経緯もあり、市の中にも色々な場所がある。場所によっては、大きな仮置場を作れるが、市街地では大きな仮置場は難しいので、小さな仮置場を複数設置する必要があるかもしれない。二本松市では、普段から分別を細かくやっており、分別することに対してはあまり抵抗がないと考えられる。品目別の仮置場はありなのかということで、市の中でも話が出ている。

環境省

一部事務組合を構成する自治体で協力する予定はあるか。

二本松市

市としてはいいと思うが、なかなか難しいと考えている。

別の案件で、汚泥の話をしているときに、市境を超えてはいけないということがあり、あまり楽観的な考えはできないと考えている。

②廃棄物部署だけで候補地を決められない場合

(候補地の合意についての現状と、他部署・部門との連携について)

高島町

課内では話をしているが、他の部署とは出来ていない。候補地が旧校舎ということで、総務課が管理している。防災部門とは話しているが、総務課の内部では話していないと思われる。総務課も含めて話をしていきたい。

宮古市

以前、被災した際には、他の課との協議の前に実務的なものを先行したこともある。候補地の規模が大きくなった場合には、防災の担当や場合によっては県との協議が必要だと考えている。

大仙市

担当課では候補地のリスト化はできており、防災部局とも共有している。災害時には、リストから候補を選び、首長がジャッジするという流れで決めていく方法をとった方が、トップダウンで決めやすいという話があり、大仙市でもこの方法を考えている。年明けには、首長と協議をする予定である。

二本松市

防災担当とは日ごろから話をできている。ただし、決める時には住民の声も聞く必要があると思いき、その段階で踏みとどまっている。

環境省

平時に合意がとれるのが一番いいが、リストを持っていて、どんな状況でも対応ができるというのが一つ有効だと考える。

環境省

公園の部署、特に防災の部署と話す際に、どんな用地のニーズがあるのか、担当者がどの程度分かっているかが重要になってくる。熊本地震の際には、仮置場の目星が自衛隊の宿営地になってしまったという例もある。現時点でそこまで考えているかということも重要である。自衛隊で炊き出しやお風呂などをやってもらうレベルになると、大きなスペースが必要になる。

環境省

リスト化する際には、その土地の周りのロケーションも考える必要がある。

機能別にするなら品質が変わらないように個別に置く、危険物は貸し倉庫の跡地にこまめに回収するなど仮置場を有効活用する方法がある。大胆な発想（市町村の枠にとらわれない発想）と柔軟な発想（運営をするうえでの用途を考える）を参考にいただければ幸いである。

③ 適当な公有地がないとき

（アプローチの仕方、県と相談しているかなどについて）

高島町

県の人とは何でも話せるが、候補地が足りないという話はしていない。もし足りなければ、率直に話をしていきたい。高島町は、一部事務組合を組織しており、そこが持つグラウンドもあるので、一部事務組合とも話さないといけないと考えている。

宮古市

特に県とは話していない。大規模な災害になった場合等、必要になったら相談すると思う

この間の台風の際には、岩泉町には県から支援が入ったと聞いている。宮古市としては、候補地があれば、積極的にアプローチしていきたいと考えている。

環境省

岩手県の岩泉町の事例として、宮古市に一定量ごとに災害廃棄物を運んできたという話を聞いているが、運んではきたが、受け入れきれないといったようなことはあったか。

宮古市

組合との調整で、使っていていいという場所は用意していたが、実際には使わなかったようである。

大仙市

国への要請は現時点ではしていない。民間でも避難所についてはアプローチはしているが、仮置場については特にしていない。あればアプローチもしていかないといけないなど考えているが、国へは大規模農地の検討などが考えられる。

二本松市

現時点では、国や民間へのアプローチはしていない。

環境省

今の話は、起こってみないことには分からないという部分もあると思う。いざという時に、どういう場所が使えるか、頭の中にあることで初動がだいぶ変わるだろうと考えている。

(4) その他

- ・候補地の公表に係る考え方などを議論した
- ・質疑応答

高畠町

実際に発災したら、どこかに置くしかない。リストアップしていない時に被災したら、どういう対応をされているのか、例があれば教えてもらいたい。

環境省

東日本大震災の際には、リストアップしていなかった自治体が多かった。他の課や首長の許可を取っている時間もないということで、独断でやったところもある。早い者勝ちで場所をとったが、これは後で役所の不協和音につながったという例がある。他にも、急いで場所を決めたが、住民の苦情が多く途中で移転を余儀なくされたケースがある。残念なケースとして、不法投棄現場を後追いで追認して仮置場にしたケースも一部にある。「勝手仮置場」という行政のコントロール下でない、行政の許可なく住民が勝手に仮置場にしてしまうという例もある。リストアップしていなかったからということはいきれないが、出来れば複数の候補地を持ってほしい。一つの候補地だけでなく、保険ということで、小さいとしても品目別での運用で行うなど、腹案みたいなものを隠し持つ必要はあるかと推察するところである。

環境省

大仙市、宮古市の発表に対して何か意見があれば。

高島町

災害協定を活用した例はあるか。

大仙市

現場判断をトップに持っていったものもあるし、建設業界は逆にトップダウンでやってもらった。ボトムアップでやったのは、仮置場の運営で、現場を見て資料を作り、災害対策本部に開けてもらった。建設業界は道路関係がメインだったが、「その他両者が認めたもの」という条文のもと、収集運搬が可能な業者を建設業協会に募っていただき、市で担当地域を振り分けして収集作業にあたっていただいた。汲み取りに関しては、普段から連携があったので、依頼対象者のリストを送る程度で比較的円滑にいった。29年の水害は皆さんの協力で何とか乗り切れたというのが正直なところ。

●資料4について

日環センター寺内から、資料4の内容について簡単に説明。詳しくは次回。

環境省：藤林対策官

次回（12月20日）の部会では資料4について議論したい。検討すべき内容については、考えておく。また、次回は参加者が変わるという自治体においては、本日の議論と次回は資料4について扱うことをお伝えいただきたい。

環境省：茶山専門官

今日の内容や資料4がスタートラインになるが、これ以外にも仮置場について、あるいはそれにまつわる点で他の自治体の考えを聞きたい、悩みを聞いてほしいということがあれば、提案していただきたい。災害廃棄物の最初の初動で仮置場を上手くコントロールすることが、その後の分かれ道になる。今のところ、東北地域では初動でつまづいた例はないが、西日本ではそういう事例がある。何か議題のネタがあればお願いしたい。

本日はありがとうございました。

以上